

兵 庫 大 学

大学院看護学研究科看護学専攻

博士前期課程・博士後期課程

学生の確保の見通し等を記載した書類

目 次

- (1) 学生の確保の見通し及び申請者としての取組状況
 - 1) 学生の確保の見通し・・・・・・・・・・・・・・・・・・ P 1
 - (ア) 定員充足の見込み・・・・・・・・・・・・・・・・・・ P 1
 - (イ) 定員充足の根拠となる客観的なデータの概要・・・・・・・・ P 7
 - (ウ) 学生納付金の設定の考え方・・・・・・・・・・・・・・・・ P10
 - 2) 学生確保に向けた具体的な取組状況・・・・・・・・・・ P10

- (2) 人材需要の動向等社会の要請
 - 1) 人材の養成に関する目的その他の教育研究上の目的・・・・・・・・ P11
 - 2) 上記1) が社会的、地域的な人材需要の動向等を踏まえたものであることの客観的な根拠・・・・・・・・ P12

(1) 学生の確保の見通し及び申請者としての取組状況

1) 学生の確保の見通し

(ア) 定員充足の見込み

①全国及び兵庫県における看護系大学院の設置状況

(全国の看護系大学院の設置状況)

過去30年において、平成元年に12大学であった大学数は、平成29年には267大学までに増加した。それに伴い入学定員は22,656人(平成29年)まで増加し、看護職養成人数の約33%を看護系大学が担うようになっている(出典「日本看護関係出版会 平成29年看護関係統計資料集」より)。大学での看護教育が専門学校での看護教育に並ぶ主要な教育課程になることで、より高度な看護教育と看護研究を行う看護系大学院への社会的要請に応える形で、看護系大学院の設置も増加している。具体的には、平成30年4月現在で、看護系大学院修士課程は、175大学院182課程(入学定員2,682人)、看護系大学院博士課程は、94大学102課程(入学定員625人)において開設されている。なお、上記の大学院数、入学定員数には、医学系、医療系の他分野の専攻を含む国立大学を中心とした医学系研究科保健学専攻等の、看護学研究科以外の課程も多く含まれている。私立大学の看護系大学院に限ると、修士課程が88課程(入学定員1,122人)、博士課程が36大学39課程(入学定員214人)(平成30年4月現在)となっており、私立大学の大学院看護学研究科は、ようやく開設が進み始めたという状況となっている。

地域の保健医療に指導的な立場で貢献できる、より高度な知識、技術、能力を持った看護職者を養成し、また看護系大学における看護教育をより一層充実させ、また看護研究を着実に発展させるためには、看護系大学院の充実が求められており、本学が開設を予定する大学院看護学研究科看護学専攻も、その社会的要請に応えるものである。

(上記の出典は全て、日本看護系大学協議会「国公立看護系大学等の状況(平成30年4月1日現在)」による)

(近畿地区の看護系大学院の設置状況)

近畿地区(2府4県)においては、看護系大学院は、国立大学4校、公立大学8校、私立大学20校の合計32校が設置されている。博士前期課程(修士課程)は32課程、博士後期課程は16大学が17課程を設置している。

近畿地区における博士前期課程(修士課程)の入学定員の合計は476人、博士後期課程の入学定員の合計は108人であるが、この入学定員は、看護以外の専攻分野を含む国立大学の大学院保健学研究科や医学系研究科等を含むものであり、私立大学のみに限れば、博士前期課程(修士課程)の入学定員は167人、博士後期課程の入学定員は22人となっている。地域の保健医療、臨床現場や在宅医療の向上のため、主に現職看護師の入学を想定する博士前期課程、看護研究者と看護教育者の養成する博士後期課程の開設は、社会的ニーズから発生

する入学者のニーズに対応するものである。

【(資料1)「近畿地区の看護系大学院の設置状況」を参照】

(兵庫県内の看護系大学院の設置状況)

兵庫県においては、大学院看護学研究科は国立大学1校(神戸大学)、公立大学2校(兵庫県立大学、神戸市看護大学)、私立大学7校(甲南女子大学、兵庫医療大学、武庫川女子大学、姫路大学、関西国際大学、関西福祉大学、関西看護医療大学)の合計10校が開設されている。このうち博士後期課程までを設置しているのは、国立大学1校、公立大学2校、私立大学3校である(平成30年4月現在)。平成31年度には、修士課程が1課程、博士後期課程が2課程開設される予定(姫路大学、神戸女子大学)となっている。

兵庫県における修士課程の入学定員の合計は157人、博士後期課程の入学定員の合計は43人であるが、この入学定員は、看護以外の専攻分野を含む神戸大学大学院保健学研究科(博士前期課程の入学定員54人、博士後期課程の入学定員25人)を含むものであり、私立大学のみに限れば、博士前期課程(修士課程)の入学定員は50人、博士後期課程の入学定員は9人と、必ずしも多いとは言えない状況となっている。

特に本学が立地する広大なエリアである播磨地区(東播磨地区、中播磨地区、北播磨地区、西播磨地区)の4地域から構成)においては、私立大学で大学院を設置しているのは3校(姫路大学、関西国際大学、関西福祉大学)のみであり、地域の保健医療に貢献できる看護職者を養成し、看護教育を担う看護教員を養成するためには、大学院看護学研究科の必要性は極めて大きく、学生募集のニーズは高まっていると言える。

【(資料1)「近畿地区の看護系大学院の設置状況」を参照】

②兵庫県内の看護系大学院の充足状況

兵庫県内の看護系大学院の充足状況(資料2を参照)をみると、兵庫県内には平成30年度現在、10大学院10研究科(11課程)が開設されており、そのうちの私立大学の大学院は7研究科である。

博士前期課程(修士課程)の収容定員充足率の平均は、国公私立も入れた10大学院において、1.02(収容定員314人に対し在籍学生数321人)、私立の7大学院においては、1.06(収容定員100人に対し在籍学生数106人)となっている。

博士後期課程の収容定員充足率の平均は、国公私立も入れた6大学院において、1.79(収容定員121人に対し在籍学生数216人)、私立の3大学院においては、1.73(収容定員15人に対し在籍学生数26人)となっている。

博士前期課程、博士後期課程ともに収容定員を充足しているが、特に博士後期課程において、定員に対する入学者数、在籍学生数が顕著に多くなっており、看護系大学院への志願ニーズの高まりが示されている。

【(資料2)「兵庫県内の看護系大学院の充足状況」を参照】

[博士前期課程][博士後期課程]

③大学院での看護教育・看護研究への社会的要請

公益社団法人日本看護協会から文部科学省高等教育局宛に提出された「看護職の人材育成に関する要望書」（平成 28 年 4 月 18 日）の中では、「看護系教育者・研究者や高度専門職業人の育成等に向けて、（看護系）大学院修士課程、博士課程の積極的な設置を推進されたい」との要望が盛り込まれている。

また、「わが国の大学における看護学教育の質保証—日本看護系大学協議会の挑戦—（平成 28 年 6 月 20 日）」においては、急速な看護教育の大学教育化の進行に伴い、看護系教員の数的な不足は明らかであり、大学教育の質保証においては、優秀な看護教員の確保が喫緊の課題であるとされている。大学における看護教員の養成と確保のためには、看護系大学院の充実が不可欠であり、本研究科の設置も、そのような社会的要請に対応するものである。

【(資料 3) 日本看護協会「看護職の人材育成に関する要望書」を参照】

[博士前期課程]

④本学健康科学部看護学科（現看護学部看護学科）の卒業生からの入学意向

本学は平成 18 年 4 月に健康科学部看護学科（平成 29 年に看護学部看護学科と改組）を開設し、平成 23 年 3 月卒業生を第 1 期生として、平成 30 年 3 月までに 8 期生、約 780 名の卒業生を輩出している。卒業生の多くは現職看護師、現職保健師として、兵庫県を中心とした地域の医療機関等で活躍している。これらの兵庫大学看護学科の卒業生に対し、本研究科への入学意向アンケート調査を行ったところ、60 名から回答があり、そのうち 13 名（22.4%）が兵庫大学大学院看護学研究科看護学専攻（博士前期課程）への受験意向（志願意志）を示した。大学院進学理由は、「臨床の現場で活かせる高度な専門知識・技術や研究力を高めたい」（38.5%）、「修士の学位を取得し、キャリアアップを図りたい」（23.1%）、「将来、教育者や研究者になりたい」（30.8%）など様々であったが、本学看護学科を卒業し、医療機関等で看護職としてのキャリアを積んでいる卒業生約 780 名の一定割合は、本研究科博士前期課程の入学志願者層であると考えられる。

【(資料 4)「入学意向についてのアンケート調査報告書」を参照】

[博士前期課程]

⑤本学健康科学部看護学科（現看護学部看護学科）の在学生からの入学意向

本学の健康科学部看護学科（平成 29 年度からは看護学部看護学科と改組）の 3 年次在学生の 59 人に対し、本研究科への入学意向アンケート調査を行ったところ、11 名（18.6%）が兵庫大学大学院看護学研究科看護学専攻（博士前期課程）への受験意向（志願意志）を示した。毎年度、本学の看護学科（入学定員 90 人）の卒業者の一定数は、本研究科の博士前期課程への志願者となると考えられる。

なお、本研究科の博士前期課程は、現職看護師を主な入学者として想定しているため、大学の学部卒業後にそのまま大学院に入学することを積極的には推奨をしない予定であるが、

そのような場合でも、卒業生が卒業後に、数年間医療機関等で看護職として勤務した後に、本学の研究科博士前期課程に入学することは大いに考えられる。

【(資料4)「入学意向についてのアンケート調査報告書」を参照】

[博士後期課程]

⑥看護教員における博士学位の重要性

「看護系大学の教育等に関する実態調査 2016年度状況調査(日本看護系大学協議会)」(資料5)によると、看護系大学教員7,772名(国公立250大学)のうち、最終修得学位として博士学位を保持する教員は2,491名(全体の32.1%)、修士学位を保持する教員は4,487名(同57.7%)、であり、修士学位保持者を含め博士学位を持たない教員は、5,281名(同67.9%)となっている。

学士教育の質保証のため、看護系大学教員においては、博士学位の修得が望ましいことは言うまでもなく、上記の博士学位を持たない5,281名(全体の67.9%)の看護系大学教員は、博士後期課程への潜在的な入学志願者集団であると言える。この数値は全国の集計であるが、近畿地区(2府4県)には、全国の267校(平成29年度 看護関係統計資料集より)の看護系学部のうち、47校(全体の17.6%)、兵庫県には、15校(同5.6%)が開設されており、そこで勤務する看護教員も学校数と同様の割合にて分布していると考えられる。本研究科では、近畿地区在住の博士学位(または修士学位)を持たない看護教員を志願者として想定している。

また本研究科では、博士前期課程、博士後期課程ともに、原則として授業を夜間及び週末に開講する予定であり、看護系大学教員が現職のまま入学し、課程を修了できる体制とする予定であり、社会人学生に対する支援を行っていく。

【(資料5)「看護系大学の教育等に関する実態調査(最終学位)」を参照】

[博士前期課程][博士後期課程]

⑦本課程への入学意思についてのアンケート調査結果(入学意向調査)

兵庫大学大学院看護学研究科看護学専攻(博士前期課程・博士後期課程)への入学ニーズを測定するため、本学看護学部看護学科の実習施設等を中心とした病院等医療機関の現職看護師、近畿地区の看護系大学の看護教員、本学看護学科の卒業生、本学看護学科の3年生に対し、入学意向を問うアンケート調査(合計493人より回収)を行った。

アンケート結果の詳細は後述するが、この調査により、以下の結果を得た。

[博士前期課程]

本研究科博士前期課程への主な入学想定対象集団(現職看護師、本学看護学科卒業生、本学看護学科の3年次在学学生)の456人のうち、60名(13.2%)より「受験したい」、その60名のうち21名(4.6%)より「合格した場合、入学したい」との回答結果となり、入学定員の6名を大きく上回る結果を得た。

[博士後期課程]

本研究科博士後期課程への主な入学想定対象集団（現職看護師、看護教員及び本学看護学科卒業生）の中で修士課程修了者または在学中の者 24 人のうち、16 人（66.7%）より「受験したい」、その 16 人のうち 8 人（33.3%）より「合格した場合、入学したい」との回答結果となり、入学定員の 4 名を上回る結果を得た。

【(資料 4)「入学意向についてのアンケート調査報告書」を参照】

[博士前期課程][博士後期課程]

⑧医療機関や大学に所属する現職看護師、看護教員を本課程に進学させる意向（人材需要アンケート調査にもうけた設問より）

「人材需要アンケート調査（問 7 及び問 11）」【資料 6】を通じて、医療機関や看護系大学の看護部長や学部長等に対し、その事業所や大学等に所属する看護職者を本研究科に進学させる意向があるかどうかについて、質問を行った。採用意向アンケート調査の詳細については後述するが、その結果、「博士前期課程に進学・入学させたい、進学・入学を推奨する」との回答が 36 件（回答事業所の 46.8%）、「博士後期課程に進学・入学させたい、進学・入学を推奨する」との回答が 34 件（回答事業所の 44.2%）得られた。

上記の結果により、約 4 割の回答事業所から、勤務する現職看護師、看護教員の本研究科への進学・入学（休職して、現職のまま、費用負担等を問わず）について、肯定的な回答が得られた。この結果は、本研究科の設置が近隣の医療機関等から支持を得ており、特に本研究科の博士前期課程は現職看護師を主な入学者であると想定していることから、地域の医療機関等の事業所を通じた入学者確保にもつながることが示されている。

【(資料 6)「採用意向についてのアンケート調査報告書」を参照】

博士後期課程の学生確保の見込み

博士後期課程の学生確保の見通しについて以下にて説明する。

入学意向調査では、(他大学の) 修士課程在籍者へのアンケート調査は実施していないが、以下の理由により、本研究科博士後期課程の中長期的な学生確保の見通しはあると考えている。

- ①兵庫大学の看護学部の専任教員（講師、助教等）11 人と助手 6 人の合計 17 人のうち、修士学位を持つ 15 人（博士学位保有者、修士課程未修了者を除く）については、本研究科博士後期課程が開設された場合は、博士後期課程に入学する見込みが非常に高いと思われる。本学では、博士学位を持たない専任教員及び助手について、博士学位の取得を強く奨励している。
- ②学生の確保の見通し等を記載した書類にて記載した通り、看護系大学教員 7,772 名（国公私立 250 大学）のうち、最終修得学位として博士学位を保持する教員は 2,491 名（全体の 32.1%）、修士学位を保持する教員は 4,487 名（同 57.7%）、であり、修士学位保持

者を含め博士学位を持たない教員は、5,281人（同67.9%）となっている。（出典：「看護系大学の教育等に関する実態調査 2016年度状況調査 日本看護系大学協議会」兵庫県及び近畿地区の看護系大学には、博士後期課程または大学院を設置していない大学もまだ多くあり、博士学位の取得を希望する看護教員の入学ニーズは、今後も存続すると思われる。

- ③本研究科博士前期課程の修了生が出る開設3年目からは、本研究科の修了生も、博士後期課程の志願・入学候補者として想定している。本学の健康科学部看護学科（平成29年に看護学部看護学科と改組）は、平成23年3月卒業生を第1期生として、平成30年3月までに8期生、約780名の卒業生を輩出している。卒業生の多くは、臨床現場等において、中堅看護職員となっているが、その中でも研究や教育を志向する者に対しては、本学にて様々な情報を提供し、博士前期課程への入学と、博士前期課程の修了後の博士後期課程への入学を推奨していく予定であり、毎年数名の本研究科の博士前期課程及び博士後期課程への志願者、入学者を想定している。（本学看護学科卒業生へのアンケート調査では、22.4%にあたる13名が「本研究科の博士前期課程を受験したい」と回答している）

中長期的には、そのようなプロセスを通じて、本学の看護学科において養成した看護職者が、看護教員として本学に就任することを目指しており、学部から臨床現場を経ての、博士前期課程、博士後期課程への一貫教育を構想している。

上記の調査結果により、本研究科は、現職看護師、大学等の現職看護教員、看護系大学卒業生から大きな期待と入学意向を得ているものと考えられ、開設後の志願者及び入学者の確保と定員充足（博士前期課程の入学定員6人、博士後期課程の入学定員4人）の見込みが示されている。

⑨定員未充足学科への対応

現在、本学において定員充足率が0.7未満となっている学科は、現代ビジネス学部現代ビジネス学科（以下、「現代ビジネス学科」という。）と健康科学部栄養マネジメント学科（以下、「栄養マネジメント学科」という。）である。

（現代ビジネス学科の対応）

現代ビジネス学科は平成28年4月に地域のビジネスリーダーとして、人々の暮らしを豊かにし、地域・経済の発展の原動力となる人材の育成を目的に設置された。現代ビジネス学科では、「グローバルビジネス専攻」「地域ビジネス専攻」「公共政策専攻」の3専攻を設定し、基礎となる経済学を活用して、それぞれのビジネスシーンで活躍できる学びを提供することを学びの特色として掲げ、積極的な学生募集を展開した。また、開設前より受験対象者等へのアンケートや、同分野を有する近隣大学等への志願動向等の調査、人材需要の動向の分析を行うなど、学生確保の見通しを確認したが、開設初年度より定員未充足の状態が続いている。これまでの入学定員の充足状況であるが、平成28年度入学者数は35人（定員充足

率 0.29)、平成 29 年度入学者数 39 人 (定員充足率 0.32)、平成 30 年度入学者数は 56 人 (定員充足率 0.46)、平成 31 年度入学者数は 107 人 (定員充足率 0.89) と微増ではあるものの、入学定員は大幅な未充足となっている。この現状を踏まえ、且つ教育の質保証を担保するための適正な入学定員の在り方について協議を重ねた結果、令和 2 年度の入学生より、入学定員を 120 人から 100 人 (△20 人) とすることを決定した。このうち、20 人を留学生枠とし、グローバルな視点から活躍できる人材を養成するために、多様な学生を積極的に受け入れることとした。現在、留学生受け入れに係る検討会 (タスクフォース) を設置し、早期に対応すべき案件について随時策定を行い、学部等を含む関連部署・委員会等において制度化並びに実施に向け検討を進めている。

(栄養マネジメント学科)

次に栄養マネジメント学科であるが、管理栄養士養成施設とした平成 13 年に設置され、安定して定員を確保していたが、近年、定員割れが続き、平成 27 年度入学者数は 67 人 (定員充足率 0.83)、平成 28 年度入学者数は 37 人 (定員充足率 0.46)、となった。急激な入学者数の減少に対応するため、入学課を中心とする検討会を重ね、定員割れの原因として栄養マネジメント学科の学びの特色が発信できていないことが挙げられた。対応策として学びを明確化するために、平成 28 年度よりコース制を導入し「食品コース」「スポーツ・食育コース」「臨床栄養コース」の 3 コースを設置し、各コースの学びの特色について積極的に広報を行った結果、平成 29 年度入学者数は 47 人 (定員充足率 0.58)、平成 30 年度の入学者数は 58 人 (定員充足率 0.72)、平成 31 年度入学者は 62 人 (定員充足率 0.77) と微増ではあるが回復しつつある。加えて、栄養マネジメント学科では 3 年次編入学の受入れを行っている。近年、編入学においても、定員を確保できていない状況にあり、編入学定員の充足に向け、短期大学等への積極的な高校訪問や編入学希望者への進学説明会の参加等、募集活動を展開してきたが、3 年次編入学定員の 20 人を充足できていない。このことから、過去 5 年間の入試結果等を勘案し、平成 31 年度より 3 年次編入学定員を 20 人から 5 人 (△15 人) に変更し、栄養マネジメント学科の収容定員を 360 人から 330 人 (△30 人) とすることとした。

以上の通り、現代ビジネス学科、栄養マネジメント学科ともに、適正な定員に減員を行う予定であることから、学生募集担当部署の予算、人的資源の強化を行い、定員の充足に努める。

(イ) 定員充足の根拠となる客観的なデータの概要

上記⑤でも触れたが、平成 32 年度に設置を予定する兵庫大学大学院看護学研究科看護学専攻の学生確保の見通しを測定するために、平成 30 年 11 月～12 月に「設置構想についての入学意向アンケート調査」を実施した。入学意向アンケート調査の概要は以下の通りである。調査報告書は (資料 4) として添付した。

(1) 入学意向アンケート調査の概要

調 査 名 称	兵庫大学大学院看護学研究科看護学専攻 入学意向についてのアンケート調査
調 査 の 目 的	兵庫大学大学院が平成 32 年 4 月に設置を予定する看護学研究科（博士前期課程・博士後期課程）（仮称・設置構想中）における学生募集のニーズを、看護職者、看護系教員、看護系学生へのアンケートを用いて計測することを目的とする。
調 査 期 間	平成 30 年 10 月～平成 30 年 12 月
調 査 方 法	調査依頼先の看護部長、看護系学部長等宛に「兵庫大学大学院看護学研究科看護学専攻 博士前期課程・博士後期課程（仮称・設置構想中）」の入学意向アンケート調査用紙を郵送し、当該施設にて勤務する看護職者、看護系教員への配布を依頼し、個別に回答の上、直接返送を得る形式で実施した。兵庫大学の卒業生には郵送により、兵庫大学在学学生に対しては大学にて調査を実施した。
調 査 対 象 （ 依 頼 先 ）	①兵庫大学健康科学部看護学科の卒業生 依頼 628 名（回収：60 件） ②兵庫大学健康科学部看護学科の 3 年次在籍学生 依頼 59 名（回収：59 件） ③現職看護師・看護教員 兵庫県播磨地域の医療機関、介護老人保健施設、訪問看護ステーション等及び兵庫県をはじめとした近畿地区の看護系学部・大学院修士課程を設置する大学から、合計 289 事業所を選定し、その事業所に勤務する現職看護師、看護教員等を調査の対象とし、1,643 通のアンケート用紙を郵送した。 （依頼先 289 事業所の内訳） 1) 病院：136 箇所 2) 介護老人保健施設：48 箇所 3) その他老人福祉施設：51 箇所 4) 訪問看護ステーション：36 箇所 5) 看護系学部・大学院修士課程を設置する大学：18 箇所 ※各施設において、当該事業所に勤務する現職看護師、看護教員 3 名～100 名に対しアンケート調査を依頼した。（回収：374 件） 【合計依頼数】 ①②③の合計：2,330 件（回収 493 件）
調 査 内 容	選択式および記述回答式の 17 問の形式 [主な質問項目] ・回答者の基本情報 （回答者の最終学歴が専門学校卒業、短期大学卒業、大学卒業の場合） ・兵庫大学大学院看護学研究科博士前期課程への受験、入学意向 （回答者の最終学歴が大学院修士課程修了または修士課程在学中の場合） ・兵庫大学大学院看護学研究科博士後期課程への受験、入学意向
有効回答件数	493 件（回収率：21.1%）
調査実施主体	株式会社高等教育総合研究所

(2) 入学意向アンケート調査の主要質問の結果

回答者の属性	回答者数	構成比
兵庫大学健康科学部看護学科の卒業生	60	12.2%
兵庫大学健康科学部看護学科の在学生（3年生）	59	12.0%
現職看護師・看護教員	374	75.9%
計	493	100.0%

設問（抜粋）	番号	選択肢	総計 (①+②+③)		①兵庫大学卒業生		②兵庫大学在大学生		③現職看護師・看護教員	
			回答数	構成比	回答数	構成比	回答数	構成比	回答数	構成比
問3 あなたの現在の勤務先・所属先をお答えください。 (あてはまるもの1つに○)	(1)	病院・診療所	343	69.6%	39	65.0%	1	1.7%	303	81.0%
	(2)	介護保険関連施設	35	7.1%	3	5.0%	0	0.0%	32	8.6%
	(3)	訪問看護ステーション	20	4.1%	1	1.7%	0	0.0%	19	5.1%
	(4)	大学教員（看護系）	13	2.6%	0	0.0%	0	0.0%	13	3.5%
	(5)	大学生（看護系）	58	11.8%	0	0.0%	58	98.3%	0	0.0%
	(6)	大学院生（看護系）	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
	(7)	その他	22	4.5%	17	28.3%	0	0.0%	5	1.3%
		無回答	2	0.4%	0	0.0%	0	0.0%	2	0.5%
	計	493	100.0%	60	100.0%	59	100.0%	374	100.0%	
問6 あなたの最終学歴（在籍中の方は現在の学校）をお答えください。 (あてはまるもの1つに○)	(1)	専門学校卒	236	47.9%	0	0.0%	0	0.0%	236	63.1%
	(2)	短期大学卒	37	7.5%	0	0.0%	0	0.0%	37	9.9%
	(3)	高等学校看護学科（5年一貫制）	12	2.4%	0	0.0%	0	0.0%	12	3.2%
	(4)	大学在籍中	60	12.2%	0	0.0%	59	100.0%	1	0.3%
	(5)	大学卒	111	22.5%	58	96.7%	0	0.0%	53	14.2%
	(6)	大学院修士課程（修了または在籍中）	24	4.9%	2	3.3%	0	0.0%	22	5.9%
	(7)	大学院博士後期課程（修了または在籍中）	2	0.4%	0	0.0%	0	0.0%	2	0.5%
		無回答	11	2.2%	0	0.0%	0	0.0%	11	2.9%
	計	493	100.0%	60	100.0%	59	100.0%	374	100.0%	
問7 【博士前期課程】あなたは兵庫大学大学院「看護学研究科博士前期課程（仮称・設置構想中）」を受験したいと思いますか。 (あてはまるもの1つに○)	(1)	受験したい	60	13.2%	13	22.4%	11	18.6%	36	10.6%
	(2)	受験しない	390	85.5%	45	77.6%	48	81.4%	297	87.6%
		無回答	6	1.3%	0	0.0%	0	0.0%	6	1.8%
		計	456	100.0%	58	100.0%	59	100.0%	339	100.0%
問8-1 【博士前期課程】【問7の「受験したい」の回答者のみ】あなたは兵庫大学大学院「看護学研究科博士前期課程（仮称・設置構想中）」を受験し、合格した場合、入学したいと思いますか。 (あてはまるもの1つに○)	(1)	合格した場合、入学したい	21	35.0%	3	23.1%	6	54.5%	12	33.3%
	(2)	合格した場合、状況によって入学したい	39	65.0%	10	76.9%	5	45.5%	24	66.7%
		無回答	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
		計	60	100.0%	13	100.0%	11	100.0%	36	100.0%
問12 【博士後期課程】【問6の最終学歴が「大学院修士課程（修了または在籍中）」の回答者のみ】あなたは兵庫大学大学院看護学研究科博士後期課程（仮称・設置構想中）」を受験したいと思いますか。 (あてはまるもの1つに○)	(1)	受験したい	16	66.7%	1	50.0%	-	-	15	68.2%
	(2)	受験しない	8	33.3%	1	50.0%	-	-	7	31.8%
		無回答	0	0.0%	0	0.0%	-	-	0	0.0%
		計	24	100.0%	2	100.0%	-	-	22	100.0%
問13-1 【博士後期課程】【問12の「受験したい」の回答者のみ】あなたは兵庫大学大学院「看護学研究科博士後期課程（仮称・設置構想中）」を受験し、合格した場合、入学したいと思いますか。 (あてはまるもの1つに○)	(1)	合格した場合、入学したい	8	50.0%	1	100.0%	-	-	7	46.7%
	(2)	合格した場合、状況によって入学したい	8	50.0%	0	0.0%	-	-	8	53.3%
		無回答	0	0.0%	0	0.0%	-	-	0	0.0%
		計	16	100.0%	1	100.0%	-	-	15	100.0%

(ウ) 学生納付金の設定の考え方

本研究科は、主な入学者を現職看護師、現職看護教員等と想定していることから、入学者の学費負担能力を考慮し、同時に大学院の研究科としての充実した研究と教育を可能とし、継続的かつ安定的な運営が可能となる学生納付金金額を、以下の通り設定した。

[兵庫大学大学院看護学研究科看護学専攻（博士前期課程・博士後期課程） 学納金]

- ・ 入学金 : 200,000 円
- ・ 授業料等 : 550,000 円
- ・ 初年度納入金合計 : 750,000 円

本研究科が競合すると考えられる、近畿地区の看護系大学院の学納金（平成 30 年度）は（資料 7）の通りである。本学の学納金は、国公立大学院を含めて、近畿地区で最も低い水準の設定としており、学生の負担軽減に配慮した学納金設定としている。

また、博士後期課程では、現職看護師や社会人の修学支援として、3 年間の学費で 4 年間の在籍が可能な長期履修制度を設けることにより、短期間で纏まった時間が取りにくい現職看護師や社会人の修学を支援する予定である。さらには夜間や土曜日開講により、現職看護師や社会人に対して、充実した研究と教育の機会を提供していく予定である。

【(資料 7)「近畿地区の看護系大学院の学納金」を参照】

2) 学生確保に向けた具体的な取組状況

[博士前期課程の学生確保に向けた具体的な取組予定]

本学の看護学科では、平成 18 年の開設以来、兵庫県加古川市、東播磨地区を中心とした多くの病院や診療所等の医療機関、高齢者福祉施設、自治体（保健所）と実習施設としての連携を続けており、施設の看護部長をはじめとした看護職者とも継続的な関係を築いている。またそれらの実習施設には、本学の看護学科の卒業生も多く就職し、勤務している。これらの医療機関に勤務する看護職者に対し、積極的に本研究科についての周知・広報を行い、志願者、入学希望者に対しては、個別の説明会等を実施することで、学生確保に取り組む。また、インターネットへの掲載や大学院の受験情報が掲載されている情報誌、看護系の学会及び都道府県の看護協会等を通じての周知・広報も実施する予定である。さらに、新聞や受験情報雑誌等も適宜、利用して周知に努める。

本学の看護学科の卒業生に対しては、本研究科の案内を、定期的に郵送することで、大学院への進学希望者に対する個別の対応を行う。

本学の看護学科の在学生に対しては、各年度のキャリアガイダンス時に、指導教員から本研究科（博士前期課程）の教育内容も含めて周知を行う予定である。

[博士後期課程の学生確保に向けた具体的な取組予定]

博士後期課程の学生確保については、修士学位保持者で研究を志す者という条件があるため、本学の看護学科の教員で博士学位を持たない者、看護系大学の教員または助手等で博士学位を持たない者を中心に学生確保に取り組む。ニーズ調査の結果、既に16名の修士学位保持者が、本研究者博士後期課程への入学を希望している（「状況によって入学したい」者も含む）。当然ながら、入学にあたっては、志願理由、学力、研究内容を厳正に判定し、入学者選抜を行い、博士後期課程にふさわしい学生及び研究指導の水準を保つ。

(2) 人材需要の動向等社会の要請

1) 人材の養成に関する目的その他の教育研究上の目的

超高齢社会とともに訪れる多死社会において、より一層複雑化、多様化する住民ニーズに対して、住民の「QOL」並びに「QODD(Quality of Dying and Death)」の向上を目指し、そのために保健医療・福祉や関連する学際的分野の学問から創生した「看護の知」を活用し看護実践ができる高度看護専門職者、また深い専門的な知識と卓越した実践能力を有し、かつ看護活動を科学的かつ客観的に捉える研究的視点を持ち、「看護の知」を自ら探究し開拓することができる、高度看護専門職者、看護教育者及び看護研究者を育成する。

[養成人材像]

(博士前期課程)

- ①エンドオブライフケアを含めた、看護の高度な専門的知識に裏打ちされたケアを提供することで、人々の生活の質の向上に貢献し、看護のリーダーとなることのできる人材
- ②看護専門職者として、地域の多職種・多機関と連携し協働することで、地域住民の生活を支えるケア体制や保健医療システムの向上に貢献することができる人材
- ③看護実践における研究を通じて、地域の看護管理、看護教育、看護研究に貢献することができる人材

(博士後期課程)

- ①看護の専門職として、卓越した専門的知識と包括的な分析能力や研究能力をもって、看護の課題や健康問題の解決に導くことができる人材
- ②国内外の多分野の専門家や研究者と協働することを通じて、地域の人々の健康課題の解決に寄与し、保健医療に関係する社会システムの構築と発展に貢献することができる人材
- ③グローバルかつ多角的、複合的な立脚点から、独創的で卓越した看護研究活動を通じて、看護の新たな研究領域を開拓し、看護の発展に寄与することができる人材

2) 上記1) が社会的、地域的な人材需要の動向等を踏まえたものであることの客観的な根拠

①超高齢化社会が進む地域を支える医療専門職としての看護職者の人材需要

全国と同様に高齢化が進展する兵庫県においても、高齢者人口の増加に伴い必然的に増加する健康問題、疾病治療、介護、病気の予防、健康増進等の地域の保健医療水準の維持と向上において、看護職者が果たす役割は益々重要度を増している。看護の高度な知識に裏打ちされたケアの提供を行い、地域の人々の生活の質の向上に貢献し、看護のリーダーとなることのできる人材（博士前期課程）や、看護の専門職として、卓越した専門的知識と包括的な分析能力や研究能力をもって、看護の課題や健康問題の解決を導くことのできる人材（博士後期課程）を養成する本研究科は、地域の保健医療に貢献することをその大きな目的としており、地域の医療機関、高齢者施設、訪問看護ステーション、介護施設、自治体等からの人材需要を踏まえた人材養成を行っていく。

②地域包括ケアシステムの推進と看護人材の人材需要

厚生労働省では、平成 37 年を目途に、高齢者の尊厳の保持と自立生活の支援を目的として、可能な限り住み慣れた地域で自分らしい暮らしを人生の終末期まで続けることができるよう、また医療や生活支援サポート及びサービスを受けられるように、市区町村が中心となる包括的な支援・サービス提供体制である「地域包括ケアシステム」の構築を推進している。（厚生労働省「地域包括ケアシステムの実現へ向けて」より）

地域包括ケアシステムにおいては、地域包括ケアセンターを中心とした医療等のサービスの提供に際し、医師、薬剤師、理学療法士、介護福祉士、ケアマネージャー等の多職種との連携が必要となるが、看護職者においては、多職種連携のキープレイヤーとなる知識と能力を持った人材が求められている。すでに多くの自治体において、在宅医療等を推進するための取り組みが行われており、医療・看護・介護の効率的な医療提供のための連携体制の確立や地域住民への普及啓発、地域医療拠点の整備等、多職種連携の関係作りとルール作りを行っている。本研究科において養成する人材は、これらの地域包括ケアシステムにおいて求められる能力を身につけた看護職者であり、地域の社会的ニーズを踏まえたものであると言える。

③看護研究者や看護教育者の人材需要

大学院における看護人材の養成については、「大学における看護系人材養成の在り方に関する検討会最終報告」（平成 23 年 3 月 11 日）において、「看護系大学が急激に増加したことによる教員の不足傾向や、博士課程に在学しながら教育に携わる教員が他分野と比較して多いなどの現状もある中、高度専門職業人の養成だけではなく、研究者や教育者の養成の充実は喫緊の課題である」と述べられている。

平成 28 年 4 月の日本看護協会による文部科学省高等教育局宛の「看護職の人材養成に関

する要望書」(資料3)では、「このような状況において、看護職がそのニーズに応えるには、大学における質の高い教育の推進と大学院における高度専門職業人の育成の規模の拡大による、人材の質および量の確保が求められる」と述べられており、「既存の大学の定員拡充と合わせて、教育者・研究者や専門職業人の育成に向けて、大学院修士課程、博士後期課程の積極的な設置の推進」を要望している。さらに同年5月の要望書においても、前述の要望の背景として、「さらに看護領域を開発・展開し、より国民のニーズに応えられる看護実践のあり方を追及していくためには、大学院における高度な研究・教育が不可欠である」と述べられている。高齢化とグローバル化が進み、今後大きく変化していくであろう我が国の保健医療体制の充実と発展のためには、その一端を担う看護教育者、看護研究者、看護専門職業人を養成する大学院におけるより一層の教育研究と人材養成が求められており、本研究科はその社会的人材需要に応えるものである。

【(資料3)「日本看護協会 看護職の人材養成に関する要望書」】

④看護系大学の増加による看護教員ニーズの増大

周知の通り、わが国の看護系大学は過去30年に著しく増加し、現在(平成30年)もなお開設が続いている。平成元年に12大学であった大学数は、平成29年には267大学(入学定員22,656人)までに増加した(出典「日本看護関係出版会 平成29年看護関係統計資料集」より)。このような看護教育の大学教育化の急激な進行に伴い、新設のみならず、既設の看護系大学においても、看護教員の確保が困難な状況が続いている。大学における看護教員の養成には、大学院での教育研究の充実が不可欠であり、高等教育機関にふさわしい、教育研究業績を十分に蓄積した看護系大学教員の養成は、喫緊の課題であると言える。本研究科(博士前期課程・博士後期課程)の設置は、看護系大学教員の養成を通じて、我が国の高等教育の人材ニーズに資するものであり、その社会的人材需要と合致したものであると言える。

⑤一般的な看護系大学院博士後期課程修了者の就職状況

日本看護系大学協議会による「看護系大学の教育等に関する実態調査(2016年度状況調査)」(資料8)によると、調査回答大学250校のうち大学院を設置する158校について、調査回答者の平成28年の博士前期課程修了者1,279名、博士後期課程修了者182名の就職及び進学状況は以下のようになっている。

【修士課程・博士前期課程】

修士課程(博士前期課程)修了者1,279名のうち、病院・診療所への就職が770名(回答者全体の60.2%)、学校(教諭)への就職が52名(同4.1%)、大学・短大・研究機関等への就職が151名(同11.8%)であり、他に介護・福祉施設、訪問看護ステーション、保健所・市町村、企業等を含めた就職者の合計は、1,139人(89.1%)となっている。大学院への進学者は、66名(5.2%)となっている。就職者と進学者を合わせた割合は、94.3%となっており、修了後の就職状況は良好と言え、博士前期課程の修了者に対する社会的人材需要

は堅調であると言える。

【博士後期課程】

博士後期課程の平成 28 年の修了者 182 名のうち、病院・診療所への就職が 24 名（回答者全体の 13.2%）、学校（教諭）への就職が 29 名（同 15.9%）、大学・短大・研究機関等への就職が 103 名（同 56.6%）であり、就職者の合計は、163 人（89.6%）となっている。大学院への進学者は、2 名（1.1%）となっている。就職者と進学者を合わせた割合は、90.7%となっており、修了後の就職状況は良好と言え、博士後期課程の修了者に対する社会的人材需要は堅調であると言える。

【(資料 8)「看護系大学の教育等に関する実態調査（就職状況）」】

⑥本課程の修了予定者の採用意向についてのアンケート調査結果（採用意向調査）

兵庫大学が設置を構想している大学院看護学研究科看護学専攻（博士前期課程・博士後期課程）の人材需要の見通しを測定するため、平成 30 年 10～12 月に兵庫県・大阪府を中心とする近隣の医療機関・大学等の 289 の事業所を対象として、採用担当者もしくは管理者に対し、本研究科の修了予定者の採用意向調査を実施した（調査報告書は（資料 6）として添付）。調査結果は以下の通りとなった（主要な設問のみ抜粋）。

【採用意向調査結果概要（抜粋）】

【博士前期課程】

本研究科の博士前期課程が養成する人材の社会における必要性を質問したところ、「とても必要だと思う」との回答が 7 件（回答者全体の 9.1%）、「必要だと思う」との回答が 57 件（同 74.0%）得られ、回答者全体の 83.1%が本博士前期課程を修了した人材が社会的に必要であると回答した。

博士前期課程の修了予定者の採用意向を質問したところ、修了生を「採用したい」との回答が 8 件（回答者全体の 10.4%）、「採用を検討したい」との回答が 15 件（同 19.5%）得られた。また、「採用したい」の回答事業所に対し、採用が可能な人数を質問したところ、採用可能人数の合計は 16 人であった。本課程の入学定員は 6 名であり、それを上回る採用需要があることが本調査にて示された。

問 6-1	番号	選択肢	回答数	構成比
貴機関・貴施設において今後、兵庫大学大学院「看護学研究科博士前期課程」で学び、養成される人材（修了生）を採用したいと思われませんか。	(1)	採用したい	8	10.4%
	(2)	採用を検討したい	15	19.5%
	(3)	どちらとも言えない	47	61.0%
	(4)	採用しない	7	9.1%
		無回答	0	0.0%
		計	77	100.0%

【博士後期課程】

本研究科の博士後期課程が養成する人材の社会における必要性を質問したところ、「とても必要だと思う」との回答が 6 件（回答者全体の 7.8%）、「必要だと思う」との回答が 52 件

(同 67.5%) 得られ、回答者全体の 75.3%が本博士後期課程を修了した人材が社会的に必要なであると回答した。

博士後期課程の修了予定者の採用意向を質問したところ、修了生を「採用したい」との回答が 6 件 (回答者全体の 7.8%)、「採用を検討したい」との回答が 10 件 (同 13.0%) 得られた。また、「採用したい」の回答事業所に対し、採用が可能な人数を質問したところ、採用可能人数の合計は 11 人であった。

本課程の入学定員は 4 名であり、それを上回る採用需要があることが、本調査にて示された。

問 10-1	番号	選択肢	回答数	構成比
問 10-1 貴機関・貴施設において今後、兵庫大学大学院「看護学研究科博士後期課程（仮称・設置構想中）で学び、養成される人材（修了生）を採用したいと思われませんか。	(1)	採用したい	6	7.8%
	(2)	採用を検討したい	10	13.0%
	(3)	どちらとも言えない	52	67.5%
	(4)	採用しない	9	11.7%
		無回答	0	0.0%
		計	77	100.0%

上記の調査結果により、看護系教育機関や医療施設において、本研究科（博士前期課程、博士後期課程）の修了予定者が社会に必要と捉えられていることが読み取れ、また、本研究科の修了予定者の採用意向も、博士前期課程と博士後期課程ともに確実に存在することが調査の結果示されている。

【(資料 6)「採用意向についてのアンケート調査報告書」を参照】

アンケート調査結果等による博士後期課程の修了後の就職の見込み

博士後期課程の修了後の就職の見込みについて以下にて説明する。

本研究科博士後期課程では、完成年度以降、入学定員である 4 人の修了生を毎年輩出する予定であるが、以下の理由により、本研究科の修了生の就職の見込みは示されていると考えている。

- ①看護系大学院博士後期課程の修了生は、その多くが看護系大学の教員として就職しており、本研究科においても同様の傾向になると考えている。看護系大学は一般的に、助手も含めて教員の入退職が毎年非常に活発であり、また、慢性的に教員が不足している看護系大学もあることから、博士学位と教育研究業績があり、本人の就職意欲があれば、就職の確実性は高いと考えている。
- ②兵庫大学看護学部においても、毎年 5 名程度の看護教員を新たに採用している。本研究科博士後期課程の修了生は、本学の専任教員の採用候補者として考えている。
- ③本研究科博士後期課程は、現職看護師、現職看護教員を入学者として想定しており、その者はそれぞれの勤務先で勤務しながら、または休職して本研究科に入学してくるものと想定している。その場合は、本研究科の修了後の就職（復職）については、現職の継続という形で保証されていると考えられる。

以上の考察と調査結果により、本研究科の修了予定者の社会的な人材需要及び採用需要は、看護系大学、病院等医療機関、行政機関における保健医療組織等において示されていると言える。

以上